

## 位置情報・応用計測部会 活動報告 貯水池深浅測量の補備と CLAS 実証実験

位置情報・応用計測部会

G N S S-WG長 横井伸之（朝日航洋株式会社）

河川の深浅測量WG長 神谷光顕（中日本航空株式会社）

### 1. はじめに

当部会は、地上・水域における位置情報の決定技術及び応用計測技術の研究担当として、年回5回の部会を開催し、最新情報等の共有を行いながら部会内勉強会を実施している。部会には「GNSS-ワーキング」「河川の深浅測量ワーキング」という2つの研究グループがあり、それぞれのテーマで議論、実証実験等を行っている。

### 2. 貯水池深浅測量の補備測量ガイドライン策定

貯水池深浅測量では、スワス音響測深機による三次元地形データの取得を基本としているが、湛水面上流末端部においては、スワス音響測深機を用いた深浅測量だけでは地形データの取得が困難となり未測区域が発生するため、別途地形データ取得方法を選択しなければならない。

通常のスワス測深機で取得できない水面下の地形を取得するために実施する測量を「補備測量」と呼ぶ。補備測量には現在、手法については指針等が無いため、作業実施機関により異なる手法の選択となることがある。位置情報・応用計測部会「河川の深浅測量WG」では、補備測量の手法、適用範囲等を整理し「補備測量ガイドライン」として、(公財)日本測量調査技術協会発行の「公共測量積算ハンドブック」に掲載を目指して議論を続けている。現在ガイドラインは途中段階ではあるが、その一部を紹介する。

### 3. CLAS 実証実験

「みちびき」が提供するサービスとして、電子基準点を用いて補正情報を計算し、「みちびき」より送信される補強情報を地上で受信することにより測位をおこなう測位補強サービス（GPSの補強）にCLAS（センチメートル級測位補強サービス）がある。CLASはセンチメートル級の言葉通り、誤差数cmで測位をおこなうことで、測量・情報化施工等・IT農業分野などでの利用が期待されている。令和2年12月より、CLAS補正データ生成の基準衛星数が11基から17基へ変更された。位置情報・応用計測部会「GNSS-WG」では、GNSSを用いた位置情報の決定技術として、「CLAS」の実務的な検証をおこなうことにより、技術的課題や利活用についての検討をおこなうこととした。観測は今年度7月に行われ現在解析中ということもあり、実証実験の実施内容を中心に紹介する。